

北海道立北見病院 心臓血管外科選択研修プログラム

(1) プログラムの名称

北海道立北見病院心臓血管外科選択研修プログラム（1～2年次 自由選択）

(2) プログラムの目的と特徴

1) 目的

3か月間の研修を通じ、心臓血管外科疾患の診断、治療における基本的な技術、知識を習得する。

2) 特徴

- ① 高度な心臓血管外科手術を実施できる体制が整っている。
- ② オホーツク圏では唯一の心臓血管外科であるため、豊富で多彩な症例を経験できる。
- ③ 緊急手術にも対応しているため、緊急処置が必要な症例も経験できる。
- ④ 外科専門医制度修練施設となっているので、外科専門医取得に必要な心臓血管外科の症例を経験できる。
- ⑤ ICUでの術後管理を通して、循環器・呼吸器を中心とした急性期の全身管理を学ぶことができる。

(3) プログラム責任者

井 上 聡 巳（北海道立北見病院 院長・心臓血管外科専門医）

(4) 研修目標

1) 行動目標

北見赤十字病院初期臨床研修プログラムの行動目標の達成に努める。

2) 経験目標

- ① 経験しておくべき診察法・検査・手技

I) 基本的な診察法

病歴の聴取

心音、呼吸音、血管音の聴診

腹部の触診

脈拍の触診

皮膚温の観察

下肢静脈の観察

下腿浮腫の観察

その他理学的所見

Ⅱ) 基本的検査法

血液検査

単純 X 線検査 (胸部、腹部)

呼吸機能検査

心電図

24 時間心電図

ABI

心エコー検査

頸動脈エコー検査

経皮的酸素飽和度

血管エコー検査

経食道エコー検査

X 線 CT 検査

カテーテル検査

動脈血ガス分析

スワン・ガンツカテーテルによる心拍出量や肺動脈圧のモニター

Doppler 血流計検査

Ⅲ) 基本的手技

中心静脈カテーテル挿入

皮膚縫合

胸骨切開および閉胸

動脈露出、テーピング

静脈グラフト採取

血管縫合

電氣的除細動

② 経験しておくべき疾患または病態

I) 頻度の高い疾患

虚血性心疾患

大動脈瘤 (胸部大動脈瘤、腹部大動脈瘤)

心臓弁膜症

慢性閉塞性動脈硬化症

不整脈 (心房細動など)

下肢静脈瘤

Ⅱ) 経験が望まれる疾患または病態

解離性大動脈瘤

大動脈瘤破裂

急性動脈閉塞

不安定狭心症

感染性心内膜炎

先天性心疾患

心タンポナーデ

ショック

急性腎不全

心室性不整脈

(5) 研修実施計画

1) 期間

1～2年次 自由選択期間

2) 研修の実施方法

① 病棟研修

入院患者の診療は、担当医が決まっているが、基本的にチーム医療体制をとっているので指導医、上級医とともに心臓血管外科入院患者全員の診療を行う。術前患者の診察、術前サマリーの作成、術後管理などを通して心臓血管外科の基本的な診療を習得する。指導医、上級医が行うICの取得にはできるかぎり参加する。

② 手術研修

指導医、上級医の指導の下で、手術に助手として参加し、心臓血管外科手術の基本を学ぶ。豚の心臓を使用して心臓の解剖や手術法を勉強する。

③ 外来研修

週に一度、指導医の補助医として参加し、手術後遠隔期の患者や術前の患者の診察法を習得する

④ カンファレンス等による研修

術前・術後カンファレンスではプレゼンテーションを行う。

その他、北見赤十字病院循環器内科とのカンファレンス、抄読会などに出席し、研修内容を充実させる。

⑤ 当直：4回前後/月。救急当番はなし。

(6) 指導体制

1) 指導医

井 上 聡 巳 (北海道立北見病院 院長・心臓血管外科専門医)

2) 指導体制の概要

指導医および上級医で指導に当たる。

(7) 研修の評価

北見赤十字病院初期臨床研修プログラムの規定に順ずる。